

2022年度「事故速報」（対象：幼児、小学生、中学生、高校生、一般）

（注）その月に報告のあった事故をまとめた速報です。

2022/6/16

No	発生日	報告日	学年等	性別	経験年数	病名	重大 準重大	場所 状況	技名等	概要	事故防止の指針
1	4/17	4/19	高3	男	4年11ヶ月	脳しんとう	—	試合	大外刈り	相四つの相手に片襟の大外刈りで投げられた。技に反応して体さばきをしていたため、体側面から畳に落下し、側頭部を強打した。	コロナ禍が継続していることを踏まえて、日ごろの練習から基礎体力の向上や受け身や技の習熟に努め、無理な技をかけない指導を徹底する。大会主催者も試合で脳しんとうが増加していることを踏まえて、大会前に啓発の予防指導を充実させる。
2	5/3	5/4	中3	男	6年8ヶ月	脳しんとう	—	試合	背負い投げ	試合中に相手の背負い投げを受け、防御し倒れた際に側頭部を打って受傷した。	
3	5/5	5/17	高2	男	4年2ヶ月	脳しんとう	—	試合	裏投げ	試合中に相手から裏投げを掛けられ、後頭部および背部上部から落下して受傷した。	
4	5/7	5/10	高3	男	5年4ヶ月	脳しんとう 頸椎しんとう	—	試合	大外刈り	試合中に相手から両袖を絞られた状態で大外刈りを掛けられ、後頭部から落下して受傷した。	
5	6/4	6/4	中2	男	5年2ヶ月	急性硬膜下血腫 脳浮腫	準重大	練習 (合同稽古)	大外刈り	受傷者が大外刈りを掛けにいったところを返され、頭部を畳に強打して受傷した。	コロナ禍の事故の特徴として、一定の経験年数のあるものが試合や合同練習で頭部打撲を起こしている。これはコロナ禍によって十分な練習やトレーニングが不足していること、所属内の感染や濃厚接触等により、他校との練習量に差が生じていること、経験のあるものは、十分に練習ができていた時の感覚で試合等に臨むことなどが考えられる。今後も同様の事故が発生することが危惧される。引き続き基礎体力の向上や受け身や技の習熟に努め、無理な技をかけない指導を徹底する。大会主催者も試合で脳しんとうが増加していることを踏まえて、大会前に啓発の予防指導を充実させる。
6	6/5	6/5	中3	男	2年2ヶ月	脳しんとう	—	月次試合	—	月次試験の試合時、相手に投げられそうになった際に、うつ伏せの姿勢でこらえ、畳に額を打って受傷した。	
7											
8											

- 【凡 例】
- 「重大」（重大事故）：「頭部外傷、頸椎損傷、熱中症などにより死亡もしくは重篤な後遺障害が生じた事故（見舞金支給に該当する事故）」
- 「準重大」（重大事故に準ずる事故）：「頭部外傷、頸椎事故、熱中症により手術、もしくは長期間の入院をした事故、その他事故抑止のための参考となる特異な事故」

【全柔連見舞金制度】

全柔連は、見舞金制度を設けており、その費用（600円）は登録時に支払ってもらっています。一部には、大会に出場しない、昇段しない等の理由で登録しない競技者も見受けられます。

柔道を安心して楽しむために、柔道をやられる人は全員、登録（見舞金制度加入）をお願いいたします。